

# 中小企業のSDGs

COLUMN

県内  
大学発

## 経世済民

523

### 埼玉学園大

SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標)と「言葉」を「存在」にする。これは2015年9月に国連本部で採択された、

可能な開発目標推進本部で決定された「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」の改訂が予定されている。

#### ■企業とSDGs

企業においても17年11月に経団連が「企業行動憲章」にSDGsの理念を取り入れた改定を行っている。こうした流れを受け、17年度には上場企業のみならず、19年は16年12月に持続

## 柴田 仁夫

### 経済経営学部 准教授



している企業は2%に過ぎず、この調査で初めてSDGsを認識した企業が84.2%もあったという。

#### ■CSR、CSV、そしてSDGs

R報告書にSDGsへの取り組みを掲載する企業も出てきており、18年度はさらに多くの企業のCSR報告書や統合報告書において各社のSDGsへの取り組みが紹介されるなど、大企業でのSDGsの認知度は高まってきた。その一方で国内企業の99.8%を占める中小企業においては、SDGsの認知度は低く、18年10月に関東経済産業局が実施したWebアンケートによると、既にSDGsに取り組んでいる・取り組みを検討している企業は、CSR (Corporate Social Responsibility) やCSA (Creating Shared Value) 共通価値の創造)といった概念がその典型であろう。

#### ■中小企業のSDGsへの取り組み

中小企業は大企業と異なり、事業活動の幅が決して広くはない。それ故、地域企業として地域に根差した経営を行うことが多く、従業員からすると自分が行っている仕事が社会や世界と

世間より「社会の公器」に通じており、CSVも本業で社会の価値と企業の価値を同時に実現することと捉えることができれば、中小企業にとってCSRやCSVは決して難解なものではない。SDGsもCSRとCSVを実現するための目標として捉えると、普段の事業活動と結びつけやすいことが分かる。

つながっていると感じるのは難しい。しかしSDGsはグローバルな視点からの目標であり、これを自社が達成することができれば、それはすなわち社会課題の解決を意味することになる。

SDGsのような欧米の新しい概念が登場すると、中小企業は経営資源の不足を理由に自社とは関係ないと考えがちである。例えばCSR (Corporate Social Responsibility) 企業への社会的責任) やCSA (Creating Shared Value) 共通価値の創造) といった概念がその典型であろう。

第2回SDGsアワードでSDGsパートナーシップ賞を受賞した(株)大川印刷(横浜市戸塚区)は、SDGsを自社のCSRとCSVに戦略的に結びつけ、従業員のモチベーションを高めることに成功している。従業員の発案で立ち上げた複数

域に根差した経営を行うことが多く、従業員からすると自分が行っている仕事が社会や世界と

のプロジェクトはSDGsと結び付き、自社だけで完結できない目標はさまざまな団体と連携して取り組んでいる。中小企業がSDGsを実践するには、地域のさまざまな企業や団体との連携が鍵となるという。

柴田 仁夫 1968年生まれ。埼玉大学大学院経済科学研究科博士後期課程修了。博士(経済学)、中小企業診断士。出版社、中小企業支援センター、埼玉学園大学専任講師を経て

2018年4月より現職。専門は戦略的マーケティング、中小企業経営論、起業論。主な著書は『実践の場における経営理念の浸透』(単著、創成社)など。18年日本マネジメント学会山城賞。